

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4672700129
法人名	有限会社 圭友
事業所名	高齢者グループホーム 花心家
所在地	南九州市川辺町下山田1726番地1 (電 話) 0993-57-2113
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54-15
訪問調査日	平成21年8月3日

【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	9 人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	①30,000②24,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(①140,000②128,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83.6 歳	最低 77 歳	最高 89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	児玉病院、米澤内科クリニック、かわなべ共立内科、川路歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家をほぼそのままの形で残し、生活リハビリの視点から段差解消や手すりの設置を最小限にとどめ、事故防止や防災面で必要な箇所だけを改造した懐かしく落ち着いた家屋である。居室ももとの部屋を利用し、各々違って居心地がよさそうである。利用定員は8人で職員の静かな声掛けにゆったりとした暮らしである。地域との連携を重視し、運営推進会議の住民参加も多く、意見も積極的である。母体医療機関は老人性認知症センターの指定を受け、研修機会が豊富で職員は経験や希望に応じてさまざまな研修を受けることができる。管理者は熱意にあふれ、認知症ケアやコミュニケーションに関して広い知識を持ち、看護・福祉の研修受け入れ機関となっている。家族に運営推進会議議事録を毎回配布したり、分かりやすい説明を付けたケアプランを送付したりと、家族とのかかわりにも心配りしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価の結果を職員ミーティングで伝達し、家族には概要表を郵送して報告している。また、評価結果はだれもが閲覧できるように玄関に設置されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各々の職員が考えたものをまとめたもので、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに開催され、家族代表・小組合代表・市役所職員・訪問看護師などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、管理栄養士や介護用品支給事業所からの情報提供や外部評価についての質問などがあり、有意義な会になっている。また、会議の内容は議事録を作成し家族へも配布している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明示するとともに口頭でも説明している。面会の時などにも一緒にお茶を飲みながら会話の場を作り、意見・要望を遠慮なく話してもらえるように声をかけている。また、出された要望は職員全員で話し合い、結果を家族に報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会である小組合に加入し、清掃活動に参加したり、回覧板を回すなど地域の一人として暮らし、準PTAとしてのかかわりを持ち、地域行事へも参加するなど関係づくりに力を入れている。また、日頃から近隣の方が野菜などを持ってきたり、お茶を飲んでおしゃべりしたりと気軽な交流ができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の最初に「地域の方と一緒に」との言葉で、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや日々の業務の中で、理念と分かりやすく言い換えた言葉を確認し、介護に取り組んでいる。また、作成された理念は玄関に掲示したり、ホーム案内に明示し職員のみでなく来所者にも理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会である小組合に加入し、清掃活動に参加したり、回覧板を回すなど地域の一員として暮らし、準PTAとしてのかかわりを持ち、地域行事へも参加するなど関係づくりに力を入れている。また、日頃から近隣の方が野菜などを持ってきていたり、お茶を飲んでおしゃべりをしたり気軽な交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果を職員ミーティングで伝達し、家族には概要表を郵送して報告し、評価結果はだれもが閲覧できるように玄関に設置されている。今回の自己評価は各々の職員が考えたものをまとめたもので、サービスの質を向上させるために有効に活用している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催され、家族代表・小組合代表・市役所職員・訪問看護師などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、管理栄養士や介護用品支給事業所からの情報提供や外部評価についての質問などがあり、有意義な会になっている。また、会議の内容は議事録を作成し家族へも配布している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当窓口や福祉課へ出向いたり、電話や市町村ホームページを利用して、積極的に相談や情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月ごとに一人ひとりの生活の様子を書いた手紙を郵送するとともに、面会や電話など機会をとらえて状況を報告している。金銭管理については金銭出納簿を作成しそのコピーを郵送して報告している。新しい職員については花心家通信や運営推進会議で紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明示するとともに口頭でも説明している。面会の時などにもお茶を飲みながらの会話の場を作り、意見・要望を遠慮なく話してもらえるように声をかけている。また、出された要望は職員全員で話し合い、結果を家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は職員の異動を必要最小限にとどめるように努力をしている。また、やむを得ず異動になるときは利用者により自己紹介や挨拶を行い、ダメージが少なくなるように配慮し、引き継ぎ期間を十分に設け、利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体医療機関ではクリニカルラダーの考え方を使い段階的に研修計画が立てられ、毎月数回の研修が行われ職員自身で選択することもできる。グループホームの新規就業者や職員もその研修を受けるしくみになっており、ホーム独自の特徴や業務については管理者から研修を受ける。さらに、行政や社会福祉協議会などの研修にも参加しホーム内の職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホーム職員との交流を図るために地区のグループホーム交流会へ職員を積極的に出席させている。また、ホームの行事に招待したり、勉強会を持ち回りで意見交換を行いながらネットワークづくりやサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居の場合が多いが、係わったいろいろな職種の担当者とカンファレンスを行い受け入れの準備を行う。また、原則として、家族や病院看護師同伴でのお茶飲みから昼食会を経て入居に至るように、段階を踏んでの入居を心がけ、宿泊の場合は経験豊富な職員が対応するなど、入居前の生活とホームでの生活のつながりを大切に、本人がホームに馴染みやすいように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす時間を大切に、利用者を「人生の先輩・先生」として尊重している。料理方法など得意なことを教えてもらったり、行事や言い伝えを覚えてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。また、日常の言葉づかいに気をつけ、たとえば「誘導」ではなく「案内」を使用するなど、記録や生活の中でも意識づけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、その他の関係者から生活歴や利用者がどのように暮らしたいかを聞き、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で、傍に寄り添ったり、やさしく触れたりすることで本人が安心して居心地の良い雰囲気を作っている。コミュニケーションを促進しながら、暮らしの意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望や意向をもとに、デイケア職員の意見も取り入れ、訪問診療時に医師や看護師に計画原案を提示し確認や助言をもらいながら介護計画を作成している。また、ミーティングや個別記録から、職員の気づきや利用者の意向を反映した介護計画が作成されている。作成した計画に分かりやすい説明を添付して家族に郵送している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を介護記録に添付しているため職員はそれを確認し、計画にそってサービスを実施することができる。ケアカンファレンスで利用者の現状を確認し、計画の見直しの必要性を図り、必要がなくても3ヶ月ごとに評価を行い計画を見直している。計画の見直しがなくとも、細部の修正が必要な場合は修正内容を赤や青の文字で記入している。しかし、支援経過記録などへの毎月のモニタリング記載については改善の余地を認める。	○	安定しているような利用者の場合も、月に1回程度は、本人や家族の今の意向や状況を確認するとともに、ケア関係者の気づきやアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための話し合いや記録を行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や入院中の支援、家族の宿泊支援や食事の配慮など臨機応変に対応している。また、夏祭りに地域の高齢者が参加したり、地域高齢者家族の相談にのるなど事業所として地域に貢献している。さらに、看護・介護の研修受け入れ施設として学生やボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、訪問診療や訪問看護師との連携により健康への支援を行っている。通院介助も行われ、医療メッセージノートを利用し、利用者の日頃の状況が主治医や医療担当者に伝わっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ終末期は対応しない方針である。入居時にホームの方針を家族などに説明し、入居後は主治医と相談しながら状況に応じて対応方針を決め、家族にも説明している。しかし、重度化した場合や終末期の事業所の対応について、方針や具体的な対応の明文化は今後の課題である。	○	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針をチームで話し合い、職員とも共有を図ることが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は外来者の目に触れないように事務室に鍵をかけ保管している。利用者への日頃の声かけについては、ミーティングで話し合い個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容などの選択を支援し、その人らしい暮らしができるように環境を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食品を使ったり、入居者と職員とで献立についての話をしたり、食事の準備や後片付けを一緒にしたりしながら、生活の中で食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。食事の介助を通して会話を楽しむ食事風景がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。入浴を嫌う利用者はあまりおらず、利用者の意向を聞きながら希望に合わせての入浴状況である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、お菓子作り、漬物作りなど生活歴から好きなことを見つけ、力を引き出しながら利用者一人ひとりの豊かな暮らしを支援している。また、家族と相談しながら、可能な方には少額のお金を所持してもらい買い物を楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体能力が低下する中、散歩や畑仕事、外気浴など戸外に出る機会を確保するために少人数に分けて外出するなど工夫している。また、デイケアを利用したり、家族の協力をもらいながら気分転換やストレス発散、五感を刺激する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。地域や警察の協力ももらいながら、職員も常に利用者の状態を把握し、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通常、夜間想定を含めた避難訓練や消火訓練を毎年2回行っている。緊急時連絡網や災害マニュアルを作成し、病院と地域の防災会議を毎月開き、地域の方にも呼びかけ協力をお願いしている。非常食として、おかゆや水や缶詰などの備えがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量や飲水量を個人別に毎日記録し、身体の状態を判断しケアに活かしている。毎日の献立をすべて記録し、栄養バランスや献立が重ならないように気をつけ、管理栄養士にアドバイスをもらいながら食生活の質の向上に努めている。また、一人ひとりの能力を見極め、小さめに刻むなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家をほぼそのまま利用し、段差や手すりの必要性を検討したうえで、事故防止や防災に必要な箇所だけを改造した懐かしく落ち着いた家屋である。玄関や居間などの共有空間は花が飾られ、季節感が感じられ、テーブルで利用者が思い思いにくつろぐ姿がある。 unnecessary 掲示を避け、昔ながらの道具が飾られ、自宅での生活が押し量れるような落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋がもともとの部屋をそのまま利用している。希望により畳を敷き、以前から使用していたタンス・椅子・テレビ・テーブルなど馴染みのものが持ち込まれ、非常に落ち着いたものがある、居心地のよい空間となっている。		